

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	常陸太田市立世矢小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	2	2	2	2	1	12	18
児童数	41	35	52	59	53	74	4	318	

研究の概要

1. 研究主題

力があり、創造性に富む児童の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年 算数(平成14年度の研究の結果で少人数指導については全学年で実施した方が効果があると考えたから)</p> <p>4・5・6年 理科(教科の専門性を生かした指導を行うには特に有効な教科と考えたから)</p>

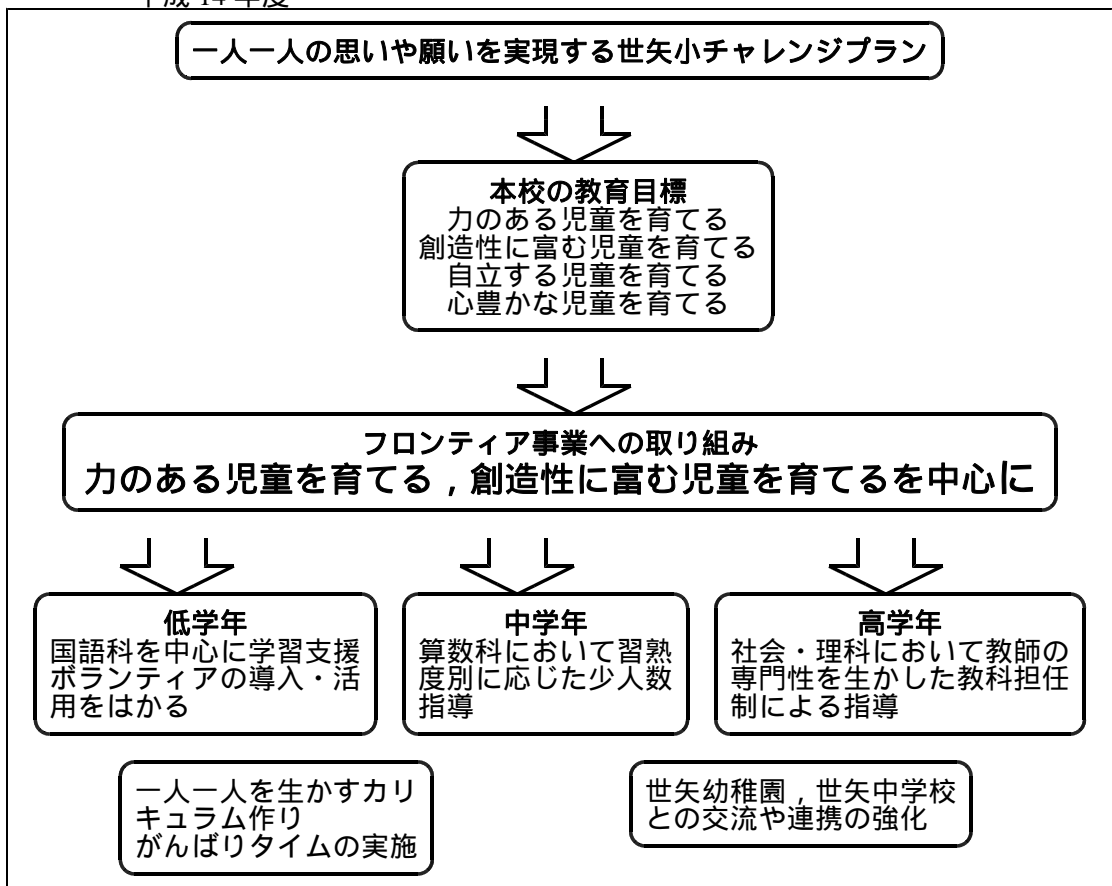
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「力があり、創造性に富む児童の育成」</p> <p>研究の見通し(仮説) 低学年で学習支援ボランティアの活用、中学年で少人数指導、高学年で教科担任制を取り入れることで、授業の改善を行い、児童一人一人に応じた授業を展開することで、児童一人一人の学力が向上するであろう。</p> <p>研究内容・方法 低学年ブロック 国語科を中心に学習支援ボランティアの導入・活用を図る。 中学年ブロック 算数科において習熟度別に応じた少人数指導を実施する。 高学年ブロック 社会と理科における教科担任制による指導を実施する。 全学年 ア 一人一人を生かすカリキュラムづくり イ がんばりタイムの設定 その他 ア 世矢幼稚園、世矢中学校との交流や連携の強化 イ 保護者との連携の強化</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 「力があり、創造性に富む児童の育成」</p> <p>研究の見通し(仮説) 平成14年度の低中高学年ブロックごとの研究をできるだけ全学年に広げることによって児童一人一人の学力の積み上げが低学年からでき力があり、創造性に富む児童の育成につながるであろう。</p> <p>研究内容・方法 効果的な学習支援ボランティアの活用(全学年全教科で) 効果的な少人数指導の工夫(全学年の算数で) 教科担任制による指導(理科) 補充・発展教材の開発 達成度評価 一人一人を生かすカリキュラムづくり</p>
--------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 「力があり、創造性に富む児童の育成」</p> <p>研究の見通し(仮説) 平成 15 年度の研究を振り返り、補充・発展させることで力があり、創造性に富む児童の育成がはかられるであろう。</p> <p>研究内容・方法 効果的な学習支援ボランティアの活用(全学年全教科で) 効果的な少人数指導の工夫(全学年の算数で) 教科担任制による指導(理科) 補充・発展教材の活用と修正 達成度評価の活用 一人一人を生かすカリキュラムづくり</p>
----------------	---

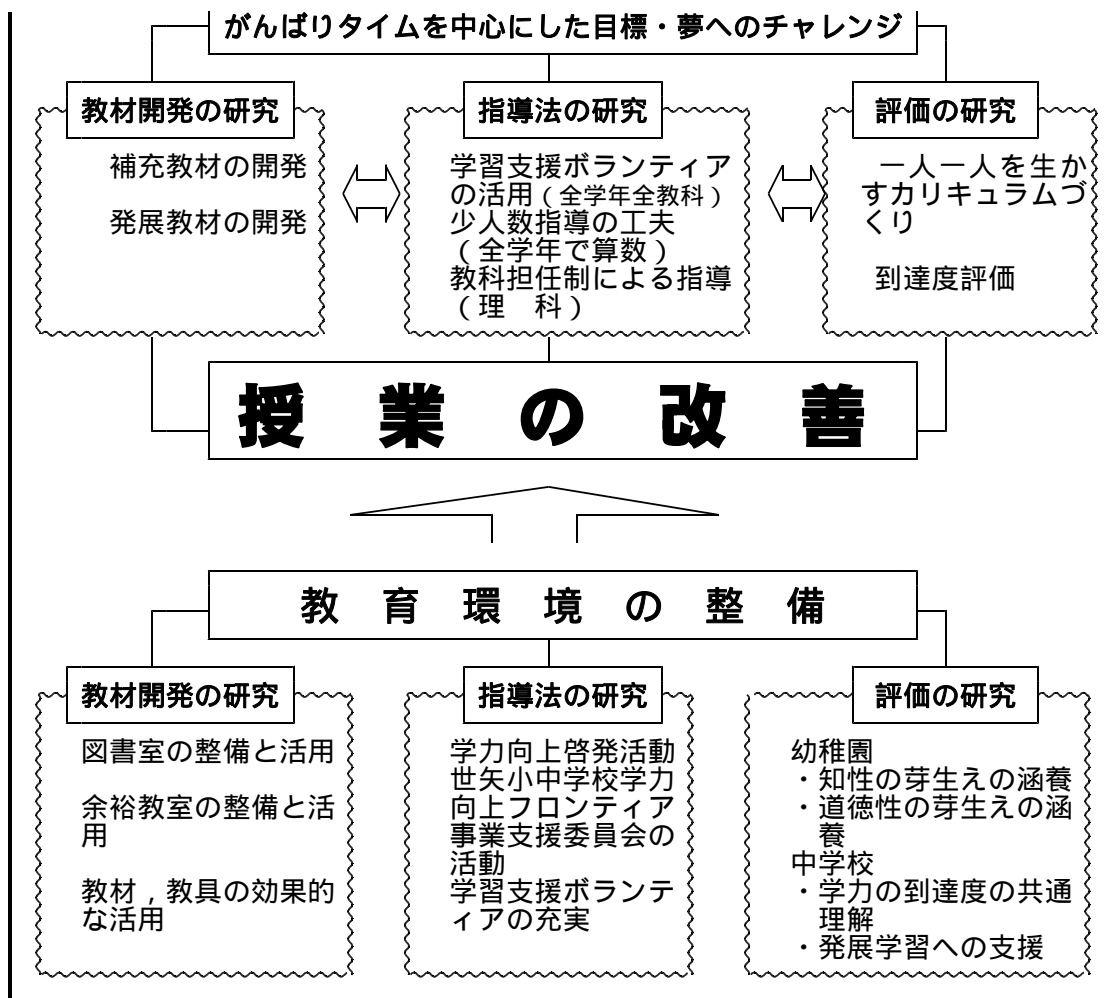
(3) 研究推進体制
平成 14 年度



平成 15 年度

世矢中学校 知力つちかいプロジェクト
自ら学び自ら考える知力あふれる生徒の育成

世矢小学校 学力向上プロジェクト
力があり, 創造性に富む児童の育成



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 指導法の研究について

学習支援ボランティアの活用について

ア 児童の反応から

（回答児童人数 241人，10月下旬実施，アンケート・選択方式）

質問 学習支援ボランティアの先生に勉強を教わることで勉強が好きになりましたか。（1つえらんで） （単位%）

前より勉強が好きになった	変わらない	前より勉強が嫌いになった
65	35	0

イ 実施状況から

本年度，35名の方に学習支援ボランティアに登録していただき，各学年の各教科で協力していただいた。

教師の計画的な学習支援ボランティアの活用により，個に応じた指導が教師1人で指導する場合より効果的な指導ができるようになってきた。

少人数指導の工夫について

ア 児童の反応から（回答児童人数 239人，10月下旬実施）

質問 1つのクラスを2つに分けたり，2人の先生で行う授業で前より算数が好きになりましたか。（1つえらんで） （単位%）

前より算数が好きになった	変わらない	前より算数が嫌いになった
39	60	1

「前より算数がきれいになった」をえらんだ理由

- ・内容がむずかしい

イ 実施状況から

準備テストを行うことで児童の前單元までの学習状況の把握に役立った。

指導計画を工夫することで教師側の教材研究が深まった。

コース分けすることで児童一人一人にまで目が届き，きめ細かな指導に役立った。

教科担任制による指導について

- ア 児童の反応から（回答児童人数 187人）
 質問 理科の授業を教科の専門の先生が教える授業で理科が好きになりましたか。（1つえらんで）（単位%）

前より理科が好きになった	変わらない	前より理科が嫌いになった
80	20	0

イ 実施状況から

昨年度は担任をしての教科担任制であったが、今年度は担任外での教科担任であったので、準備や教材研究の時間に余裕がでてきた。教科担任制を導入することで一人一人の児童に多くの教師がかかわることができ、児童理解の場を多面的にとることができた。

- (2) 教材開発の研究について
 算数や理科の発展・補充教材を作成することで、各単元の教材研究が深まった。算数や理科の発展・補充教材を作成することで、補充・発展教材の作成の仕方が分かり、他の教科への応用が可能になった。
- (3) 評価の研究について
 一人一人を生かすカリキュラムに基づいて支援することにより、児童一人一人が積極的に課題に取り組むようになり、学習意欲が高まってきた。本年度の（平成16年1月末現在）児童が取り組んだ各種コンクールへのチャレンジ状況は45種類、延べ約1600人である。これは、児童の学習への意欲が高まり、自分の力をいろいろな面で伸ばそうとしてする表れである。到達度評価表を作成することにより、児童一人一人の到達度を確実に把握しようとする教師側の態度が確立されつつある。
- (4) 地域との連携について
 世矢小・中学校学力向上フロンティア支援委員会主催の教育講演会、演題「みんなで子育て - 学校・家庭・地域でともに考える学力」講師（富山大学教育学部助教授黒羽正見先生）により実施された。「確かな学力とは」どんなものなのかを考えさせられる内容であった。
- (5) 世矢中学校との連携について
 学力の到達度の共通理解
 中学校の数学担当者と小学校の少人数指導担当の打ち合わせを夏休みに実施した。その後、各学校で到達度表をもとに子どもの到達状況を把握している。
 発展学習への支援
 中学3年生で理科を選択している生徒11名が参加し、5年2組の理科の授業に取り組んだ。「花の観察」「インパチエンスの花粉管の観察」を通して、顕微鏡の使い方に習熟することをねらいとして、中学生に支援してもらう学習を展開した。小・中学生とも比較的良好な感触で取り組んでいる様子がうかがわれた。
- (6) 県「学力診断のためのテスト」の分析から
 現在の6年生の国語、算数、理科の県「学力診断のためのテスト」の4年生からの追跡調査を行った。（平均正答率との差）

	平成13	平成14	平成15
読むこと漢字	-3.58	-5.44	2.36
書くこと漢字	-10.42	-4.18	-3.42
読むこと物語	-1.98	-1.38	1.35
読むこと説明	-3.92	1.4	-0.02
書くこと作文	-8.22	-5.2	-5.35
聞くこと	-2.53	2.17	4.23

	平成13	平成14	平成15
数と計算	-5.5	-3.1	-0.6
量と測定	-6.4	2	-2.3
図形	-9	-1.8	-2.4
数量関係	-7.5	-1.5	0.8

	平成13	平成14	平成15
生物とその環境	-7.41	-3.65	0.67
物質とエネルギー	-4.48	-0.19	9.65
地球と宇宙	-1.8	7.4	-0.08

全体的にみて、児童の学力が向上しつつある。教師がより意識して、児童のきめ細かな指導に取り組んだ表れといえる。

2. 今後の課題

- (1) 指導法の研究では
 ごく少数ではあるが、少人数指導の習熟度別学習を行う場合本人及び保護者と教師が考えるコースに隔たりがある場合の教師のコース変更の働きかけの方法を考えていく。
 少人数の算数、教科担任制の理科、国語などの教科に対する学習支援ボランティアの導入の方法を考えていく。
- (2) 教材開発の研究では

- 作成した教材の活用と修正をする。
- (3) 評価の研究では
算数の到達度評価に基づいた一人一人を生かすカリキュラムの作成し、授業の中で生かしていく。
- (4) 地域との連携では
地域や保護者の希望に沿った学力向上の施策について考えていく。
- (5) 世矢中学校との連携では
本年度理科での交流授業を試みた。内容と方法等を検討し、さらにどのような取組ができるか考えていく。

学力等把握のための学校としての取組

- ・ 県「学力診断のためのテスト」(4年～6年 4教科 1回)
- ・ 基礎学力テスト(漢字力テスト、計算力テスト(年3回))
- ・ 指導法に関するアンケートの実施(年1回 10月)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 研究協議会の開催
日 時 平成15年11月12日(水) 13時30分
場 所 常陸太田市立世矢小学校
テーマ 力があり創造性に富む児童の育成
対 象 県北地区学力向上推進協議会会員
県北地区内全小学校の教職員
本校PTA役員
- (2) 常陸太田教育研究所(常陸太田地区教職員の自主研修任意団体)での広報活動
フロンティアティーチャーによる基調研究の経過中間報告(8/11)
- (3) 他校への反響
市内の多くの学校で少人数指導に取り組み、その成果を多くの学校が公開するなどして、積極的に個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善に努めている。
- (4) 常陸太田市として発展、補充教材の作成
全学年の算数、3～6年生の理科の全単元の補充、発展教材の作成に市内の全職員で取り組み、年度末に資料集としてまとめた。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | |
|----------------------|----------------------------|---|-------------------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | レ | 14年度からの継続校 |
| 【学校規模】 | 6学級以下
13～18学級
25学級以上 | レ | 7～12学級
19～24学級 |
| 【指導体制】 | レ 少人数指導
レ 一部教科担任制 | レ | T・Tによる指導
その他 |
| 【研究教科】 | 国語
生活
体育 | | 社会
音楽
その他 |
| | | レ | 算数
図画工作 |
| | | レ | 理科
家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | レ | 有 無 |